

(学校番号040)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【芝原小学校】

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】さいたま市学習調査において、算数科の平均正答率が市の平均正答率を3ポイント以上下回っており、算数の確かな学力の定着が課題である。 【指導上の課題】習熟度が低い児童は、学習に主体的に取り組む割合が低く、意欲的に課題に取り組むことができない児童がいる。	⇒ 従来の問題解決型の学習に促されるのではなく、1時間の授業の流れや単元計画を工夫することで、「指導の個別化」「学習の個性化」を意識した授業改善を行っていく。【単元ごとに学年で教材研究を行う。】そうすることによって、児童が主体的に学習に取り組むことで、基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。
思考・判断・表現	【学習上の課題】主体的に算数の授業に取り組む児童は、市全体から見ると少なく、算数の授業に粘り強く取り組むとともに、授業の中で自らの学習を調整する力が不十分である。 【指導上の課題】教員経験の年数による指導力に差があると考えられる。	⇒ 今年度の芝原小学校は学校課題研修として、「わかるできる喜びを味わい、自ら学びに向かう児童の育成」を目指している。個別最適な学びを取り入れた授業改善を行うことで、児童が粘り強く学習に取り組むとともに、自己調整能力を育成すること目標としている。【算数科における授業の型「芝原スタンダード」を作成することで、指導上の課題の改善を図る。】

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語：(1)言葉の特徴や使い方に関する事項で課題が見られた。特に、漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られたため、漢字を着実に定着させることが今後の課題である。 算数：A「数と計算」において、除数が小数である場合の除法の計算に大きな課題が見られた。また、D「データの活用」において、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題に課題が見られた。昨年度と同様にD「データの活用」の領域に課題が見られたため、各学年でデータの活用の単元で丁寧に指導する。
思考・判断・表現	国語：読むことに課題が見られた。その中でも、人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかに課題が見られた。日常的に読書に親しみ、情報をよりはやく読み取ることができるようにする。 算数：示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表す問題に課題が見られた。問題文から課題を解決するために必要な情報を読み取ることができるよう、繰り返し指導する。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	学校課題研修では、「指導の個別化」「学習の個性化」についての理解を深め、1時間の授業の流れや単元計画を工夫するように全ての学年が意識して授業改善を行うことができた。	変更なし
思考・判断・表現	A	学校課題研修の取り組みとして、算数科における授業の型「芝原小スタンダード」を全職員で共通認識を図ることができた。1学期には、中学年での研究授業・研究協議を行い、個別最適な学びを取り入れた授業の改善を図った。	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評価
A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)